



▲震災からの創造的復興と中山間地の新たな魅力の発信に向けた財団の設立記念フォーラム



プロの目で気付くことがあるんです。自分のふるさとって、案外分からないことが多い。『よそ者』のしかもプロの目で見てもらうことも大切です。

大桃美代子さん
タレント、魚沼市出身。平成17年に「魚沼特使」に任命され復興活動に携わる。

生活の延長上にある住宅を作る必要があるんです。地域の木工や左官屋など生業の生態系を守ることが、地域の維持につながります。



三井所清典さん
建築家。山古志地域の復興住宅の設計に携わる。



交流の場をつくりたい
地域外から応援に来てくれる人との交流で生まれる、新しいアイデアや人間関係を円滑にするための支援をしていきます。

長岡市長



住む人、旅の人、助つ人の人。 山のちからと人の元気で

（財山の暮らし再生機構設立記念フォーラム開催）

今年四月に設立された（財山）の暮らし再生機構の設立記念フォーラムが七月二日、東洋大学・井上円了ホール（東京都）で開かれました。

設立記念フォーラムには、国・県の関係者やNPO、ボランティア団体、学生など約六百人が参加。ノンフィクション作家・柳田邦男さんが基調講演で、「ふるさとの良さを再発見し、再認識してその価値を見いだすことが重要」と提言。パネルディスカッションでは、「山里の暮らしの創生に向けて」人の未来の幸せを、「山里の暮らし」から考えよう」をテーマに三人のパネリストが意見を交わしました。

（財山）の暮らし再生機構
〒30-1213



市役所のあり方 市民委で検討進む
中心市街地に移転する市役所は、現在の市役所よりもっと分かりやすい窓口の配置や、複数の手続きが速やかに済むような改善など、市民サービスの向上を目指しています。

新しい時代の市役所のサービスのあり方について、検討を進めています。現在、焦点になっているのは、まちづくりの効果を高めるため、市役所をまちなかに分散して配置するか、厚生会館地区に一括して配置するか、窓口サービスを中心に、市民が迷わずスムーズに手続きができるか、たらい回しが生じないかなど、市民の利便性の観点から議論を深めています。

市民満足度を高める サービスを検討

市役所移転に際して大事なことは、「今よりもサービスを向上させること」。「複数の窓口にもたがる手続きのときには、職員の方から出向いて対応してはどうか」など、庁舎のハード面から業務運用のソフト面まで、もっと親切でもっと分かりやすいサービスのあり方が検討されています。

七月十一日に行われた第三回委員会では、「IT技術の進歩した今、内部管理などの業務は、分けて配置しても市民サービスは変わらないのでは」「複数の手続きを一つの窓口で一括して行うワンストップサービスの実現

市役所移転に際して大事なことは、「今よりもサービスを向上させること」。「複数の窓口にもたがる手続きのときには、職員の方から出向いて対応してはどうか」など、庁舎のハード面から業務運用のソフト面まで、もっと親切でもっと分かりやすいサービスのあり方が検討されています。

寺泊地域で水難救助訓練を実施

海水浴シーズンを前に与板消防署が6月29日、寺泊中央海水浴場で水難救助訓練を実施しました。

訓練は、手こぎボートが転覆し乗員がおぼれたという想定。潜水士の資格を持つ水難救助指定員が、おぼれた人に救命浮輪を着けて浜辺まで搬送したり、行方不明者を潜水して救助したり。本番さながらの訓練が行われました。

合併で16キロメートルもの海岸線を持つことになった長岡市。新潟海上保安部の潜水士との合同訓練や定例的な潜水訓練を重ね、水難事故に備えます。



▲山古志の原風景に調和した外観で、屋根は落雪式、玄関には雪を防ぐ雁木が備えられています

竹沢団地り災者公営住宅(山古志)が全国特別賞受賞

竹沢団地り災者公営住宅が、木材利用推進中央協議会の会長特別賞に選ばれました。

同協議会は、木材利用の促進を図るため平成5年から、農林水産省の後援を受けて先進的な建築物を表彰。今年も全国から推薦のあった65件の中から、今回初めて設けられた特別賞に同住宅が選ばれました。

震災復興への希望を託す災者公営住宅。山古志の木造住宅デザインや工法を生かしつつ、吹き抜けと採光窓で3mの積雪に覆われても太陽の光を確保できるようにするなど、環境や高齢者の生活、将来の用途へ配慮した点が評価されました。

地域の防災リーダーを育成！ 第2期中越市民防災安全大学が開校

中越市民防災安全大学が7月7日、開校しました。受講生は、災害を想定した図上訓練や救命講習など11月までに28講座を受け、防災に関する知識や技術を学びます。

2期目となる今年は、中越地域に住む20歳から72歳まで46人が入学。特別講座で長岡市長が、「災害時には、冷静かつ臨機応変に対応できるかがカギ。今までのノウハウを学ぶことで、現場での応用力につなげてほしい」と話しました。



▲地域の防災リーダーを目指し真剣な表情の受講生

川崎5丁目自主防災会会長で受講生最高齢の高橋治一さんは「いざというときに、住民が一つになって動けるように防災知識を学びたい」と抱負を語っていました。

陸上競技で2人が世界大会へ

長岡商業高校2年生の北村千聖さんが、チェコ共和国で7月11日から15日まで開催された第5回世界ユース陸上競技選手権大会(女子400m、スウェーデンリレー)に出場。スウェーデンリレーで7位に入賞しました。長岡市から同大会への出場は、北村さんが初めてです。

また、渡辺なつみさん(長岡高校出身・福島大1年)が、8月25日から大阪市で開かれる第11回世界陸上競技選手権大会(女子4×400mリレー)への出場が決まりました。渡辺さんは昨年、のじぎく兵庫国体の少年女子A400mに出場し優勝。大会での活躍が期待されます。



▲北村千聖さん (長岡商業高校2年)



▲渡辺なつみさん (長岡高校出身・福島大1年)